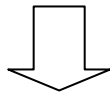


地域から見えてきた課題

1 関係機関との連携・ネットワークの構築

- ① 小中学校・養護学校等の教育機関、医療機関との連携ができていない。
- ② 保育園・幼稚園との連携ができていない。
- ③ 医療処置の必要な障がい者の施設への受け入れ体制が整っていない。
- ④ 重度・難病者の社会資源の資源が不足している。
- ⑤ 精神障がい者の支援をする場合、保健・医療・福祉を切り離して考えることはできないが、それぞれの分野の役割があいまいで、専門性が活かされていない。また、家族が安心して気軽に立ち寄り、集える場がない。



<教育> 関係機関との意思疎通が図れる関係作り

<精神> 保健・医療・福祉の役割分担

<医療> 障がい者の医療に関するバックアップ体制作り

2 日中活動のシステムをつくる

- ① 市内の生活介護や就労支援の事業所が定員を満たしており、新たに利用する方が利用できない。
- ② 本来、生活介護を利用すべき人が就労継続支援を利用しており、就労継続支援を利用すべき人が利用できない。
- ③ 施設の利用ができて、市外の施設であったり、車椅子対応の送迎車が不足したりして、送迎をしてもらえないこともある。
- ④ 障がい者の集える場がない。身体障がい者の場合、移動支援の対象とならず、その場への移動手段もない。

3 その他

＜住居の問題＞⇒研究課題

- ① 独居で在宅生活が困難な方でも、入所施設の空きがなく入所できない。
- ② 身体障がい者が賃貸できるバリアフリー住宅が少ない。
- ③ 身体障がい者にとって、段差や坂道がある地区では一人での移動が困難。
- ④ 既存の建物を利用し、自立した生活が送れるサポート体制を整えた居住システムの検討。
- ⑤ 将来、自宅以外で生活することになる場合を考え、あらかじめ体験できる場がない。

＜ヘルパーの問題＞

- ① ヘルパー養成研修の実施
- ② ヘルパーが支援について話ができるスキルアップの場